

# 佐久穂小・中学校 キャリア教育便り 1

令和3年度、佐久穂小・中学校キャリア教育がスタートしました。昨年度から続く「コロナ禍」ではありますが、感染拡大防止対策を十分に行った上での実施となりました。今まで同様に多くの地域の皆様にご協力いただき、小・中学生が様々な体験を通して、キャリア教育における勤労観や職業観を身につけてほしいと願っています。

過日行われた小学生の林業体験では、「将来、林業関係の仕事に就きたい。」という感想を発表した児童がいました。体験することによってその魅力を感じ、「ふるさと佐久穂町で働きたい。」という願いを持つ子どもが増えることを期待しています。



見守られながら新学期がスタートしました

## 7学年 林業体験学習 苗木の植え付け

佐久穂小・中学校は、広い学校林を所有しています。そこには、7年前の開校当時から6年生が苗木を植えてきました。7年生は昨年この体験ができなかったため、中学生になってからの実施となりました。

さくほ森の子育成クラブの皆さんにご指導をいただき、一本一本丁寧に植え付けていました。道路側にシラバ、奥川にカラマツの苗木を合計で200本植え付けました。50年後に伐採する予定だということですが、この木が町のために役立つことを期待し、たくましく生長してくれることを願っています。



## 8学年 職業講話 ～進路学習～

町内でカレー店を経営されている豊田さんに講師をお願いし、お話をさせていただきました。

ご自身の体験をもとにしたお話は、生徒にとってリアルに感じることであり、これから経験するであろう「決断」の場面において一人ひとりに生かされるのではないかと思います。

グループ活動を多く取り入れていただき、自分自身のこととして考えることができ「働くとはどういうことなのか。」をしっかりと学ばせていただきました。



## 9学年 高齢者疑似体験・車いす体験

社会福祉協議会・老人保健施設「さやか」の皆さんに加え、多くのボランティアの方々にご協力いただき、9年生が高齢者疑似体験・車いす体験を行ないました。

様々な装具を付けることで、手足が思うように動かないことや視野が狭くなってしまうということを体験しました。

このことにより、高齢者にはやりたくてもうまくできないことがあることを知り、高齢者への接し方について学ぶことができました。



# 学校林『創造の森』での林業体験

佐久穂小・中学校の4年生から8年生(中学2年生)を対象に、森林林業に特化したキャリア教育事業。このキャリア教育には町内の林業事業者を中心に構成される「さくほ森の子育成クラブ」というボランティアの方々が発行し、子ども達の体験活動をサポートしてくださっています。クラブの方々が無私的にバックアップしてくださるからこそ実現できる素晴らしい体験です。

## 4年生 シイタケのコマ打ち体験

4年生のみどりの少年団の活動として、シイタケの駒打ちをしました。原木に印を付けドリルを使って穴を開け、駒を打ち込みました。初めてドリルを使う子どもたちの表情はとて真剣でしたが、楽しそうに取り組んでいました。その後、クラスごとに分かれて、「ほだ木」の本伏せをしたり、「兜岩湧水」を見学し佐久穂の水についても教えていただきました。全員できのごクイズにも挑戦しました。2年前、今の6年生が駒打ちをして成長したシイタケも収穫しました。郷土の林業に触れる活動を通して、森や木、林業などに興味を持ち、これからの活動が楽しみになる体験となりました。



〈兜岩湧水〉



〈電気ドリルで穴をあける〉



〈木槌で駒を打ち込む〉



〈ほだ木の本伏せ〉



〈シイタケの収穫〉

## 5年生 高性能林業機械の体験

5年生は林業の現場で使っている高性能林業機械の試乗体験をしました。まず初めに、木の伐倒や造材、運搬等の様子を見学しました。大木を瞬く間に同じ長さに切り分けていくハーベスタや、道の無い傾斜地でも木材を楽に搬送できるフォワーダを運転するなど、機械を使った様々な作業を体験しました。自分の手でのごぎりを引いて丸太を切ることと、チェーンソーを使って丸太を切ることを比べてみました。このような機械の発達により、最近では林業の仕事に就く女性が増えていることも教えていただきました。機械の便利さ・凄さを体感し、林業に携わる方々の苦労や工夫、やりがいなども学ぶことができました。



〈フォワーダ〉



〈ハーベスタ〉



〈チェーンソー〉



〈手のこ〉

## 6年生 苗木の植林

6年生は、佐久穂町を象徴する重要な樹木であるシラカバとカラマツを植えました。植える場所の「地拵え」を行いました。木の伐採が終わったあとに残されている枝や根っこなどを、集めて片付けました。それからカラマツとシラカバの苗木100本ずつを植えました。自分たちが植えた木が50年後に佐久穂町の子どもたちのために使われることやどうして林業の仕事についてなのか、など大変興味深いお話も聞くことができました。佐久穂町の未来に繋がる体験をしながら、自分たちの故郷を大切に思う気持ちも根付いてくれることを願っています。



〈地拵え〉



〈トウガを使って穴を掘る〉



〈カラマツの植林〉



〈シラカバの植林〉